「金」

石原慎太郎　47
（衆議院議員・東京都大田区）

昨今、私学の名門・早稲田大学の入試問題漏えい事件が世間を騒がすに及んで、ますます日本の大学が入るに難く、出るにはなはだ易（やす）い、極めていびつなものになりはてているのを痛感させられる。加えて、こうした大事件が起こってなお、今日の大学の在り方そのものに国民的な批判が一向に起こって来ないのが不思議でならない。

大学生の数が、二百万人といわれる現代だが、それぞれの父兄は、子弟を大学に合格入学させるために、骨身をけずる苦労をしたに違いない。しかし、その父兄も、子供が大学に入ってしまった後は、勉強しろ、と声をかけたり、しかったりすることさえもずないのではあるまいか。

先日、十四日付の本紙一気流一欄に、瞳江

国家試験の実施で大卒資格を厳しく

改革論、国民的討論に

来の東大とか早稲田といった大学の個性を、半ば球（まっ）殺しても、その根本的改革の段階に来ていると思う。今日の大学の在り方を憂える政治家はいないが、どういう訳か、根本的改革案が出て来ず、党の中で論議するのは、いつも役人が出して来る小手先の案でしかない。

私は、教育の総帥である大学を本質的に変えることで、小学校から幼稚園までの、教育内容を含めた、在り方が大きく変わって来ると信じる。私の改革案は、大ざっぱにいえば、暫定的に二級から四級までの国家の大学卒業試験を医学部はじめ全学部に及ぼし、各大学の卒業必修科目が足りても、国家試験に受からなければ大学卒とみなさない。たとえ、天下の名門にいようと、三級試験しか通らぬ学者は、三流学士ということで、卒業校のいかんを問わず、平等な識別に代えて、勉強した学生としなかった学生の間に、公平な差別をはっきりとつけること。

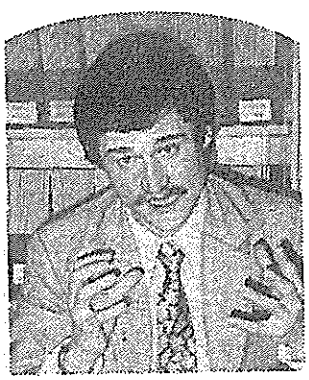
更に、大学の勉強過程で、専攻した専門のゼミナールの教授の下で、卒業論文を書かせ、その論文の出来ばえによって、大学院の入学試験を免除するなどの措置をとるべきだと思う。

ポツポツなど

「日本人とは違う」思い込み困る

長島　米子　31
（主婦・千葉市）

「鍵（かぎ）っ子入り」に代表



トーマス・J・ネビンスさん（30）
（アメリカ人、会社経営）

日本に来た最初の一年間は、できるだけ英語の話せる人との接触は避け、徹底的に日本語を勉強した。おかげで今では、人に迷惑をかけない程度には話せるようになりましたよ。私の経験からいうと、日本語習得は決して難しくない。まず文法と漢字をしっかり覚えようとすれば、単語などほ英語よりもむしろ簡単なくらいです。

でも、日本人は、日本語は外国人にとって難しいという先入観があるせいか、「コンニチワ」とあいさつするだけで「日本語がお上手ですね」とくる。電車の中でも必ず英語で話しかけてくるし、何かあれば「エクスキューズミー」です。こちらは勉強しようと努力しているのに、ハナからできないと思い込んでいる。もう私は慣れてしまったが、笑を悪くして帰国する人も多いのですよ。日本人に劣等感を抱きながら日本語を勉強している身にもなってほしいですね。

資源の面だけではない。最近、在日スウェーデン人家庭で火事があり、三人の子供が焼け死んで、母親が助かった。すると、すぐ「日本人なら子供第一で、母親だけが生き残ることはない」という日本人の声が聞こえてくる。

本当は、日本人も外国人もそれほど違いはないんです。ハシだって、少し練習すれば、すぐに使えるようになります。長く日本にいるから、悪意があって言っているとは思わない。だけど外国人にはわからない、外国人とは違うんだと最初から決めてしまわれると、私のように日本を理解したいと思っている〝移民〟には、とても寂しいんですよ。

（福岡7年、千葉・市川市）

ポツポツなど

からだ。一日を家族のだんらんと休息に当てたら、もう一日は自分の才能と力をフルに生かして、外に目を向ける余裕を持つことこそ、明日の人間の生きがいとして最も理想的なよりかたちだろうか。これを横割りで同世代が集まってやるのも良いだろう。しかし、縦割りにしてみると、一番動きやすい形が家族単位ということになる。家族には活動するための余暇ということになる。

働きずくめの日本人にとって、この空間利用はいまだに不慣れで、きこちなさが目立つ。

に」

民江は恐縮そうだった。

「二人の子供にも会ってらいたいが、学校から帰ないし。兄さんを送ってるよ」

信質は車をだしにただがった。

「こんどはどうぞ泊りでいらしてください」

と民江が言った。

「そうしましょう」

なんのために来たの

きたのだ。またゆっくり来るよ。来たばかりでわるが車をよんでもらえるか」

「駅まで送りますよ」

「いらしたばかりです